

ブック村だより

本学コレクション紹介(10)

K.マルクス『資本論』第2巻, 初版(1885)	高橋 哲雄 (1)
特集 心に残る1冊の本	鋤柄 光明 (2)
ぶっくす・なう	(4)
『タフの方舟』	谷岡 一郎
『消費とアメリカ社会——消費大国の社会史』	中野 安
『バフェット 投資の王道』	佐和 良作
『いちばん大事なこと：養老教授の環境論』	下山 晃
特別寄稿：松本茂章先生（本学非常勤講師）	
大阪・ミナミに一番近い大学に学ぶ諸君へ！	(6)
よくあるご質問（図書館ホームページ編）	(7)
インフォメーション・開館案内	(8)



エンゲルス (1820-1895)

本学コレクション紹介(10) K.マルクス『資本論』第2巻, 初版(1885)

マルクスが1883年に死んだとき、『資本論』はまだ第1巻(1867)しか完成してはず、未整理の草稿の膨大な断片が残されていた。それを編集して第2巻(1885)、第3巻(1894)にまとめあげたのは盟友エンゲルスの功績である。

エンゲルスの貢献は遺稿の編集だけではなく、彼はそのずっと前からロンドンでのマルクス一家の亡命生活を物心両面で支えてきた。彼はマルクスへの送金のために、やりたくもない父の会

社経営を20年も続けたばかりか、自分の生活も切り詰めた。マンチェスターでの有名な「二重生活」である。大企業の御曹子としての最小限の財界活動や社交界生活の表の顔と、アイルランド人女工の内妻との労働者街でのつましい社会運動家の裏の顔を、ほとんど芸術的に使い分けた。それによって、貴族の娘でやりくり下手のマルクス夫人は救われ、娘たちは金のかかる私立学校に通うこともできたのである。(名誉教授 高橋 哲雄)

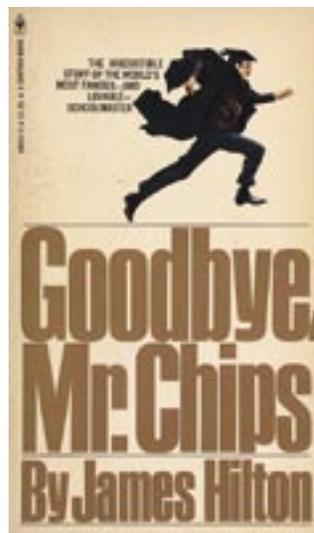
特集 心に残る1冊の本

人生には色々な出会いがあります。今回はそのなかで心に残る本との出会いにスポットをあて、本学教授 鋤柄光明先生にお願いしました。

「チップス先生、さようなら」

総合経営学部教授 鋤柄 光明

北海道の札幌は私の生まれ故郷ではありませんが、中学・高校時代の6年間を過ごした所で、いまでは「心のふるさと」と思っています。そのように思えるのは札幌での最後の年に一冊の本とその本を薦めてくださった先生に出合ったからです。高校三年の秋学期が始まった最初の日に、クラス担任で英語担当のA先生が大学進学希望者のために補講を実施することになったので希望者は登録するようとの話がありました。当時昭和30年代は普通高校教育が普及し、ようやく大学進学ブームが始まろうとしていた頃でしたが、札幌には公立高校が二校しかなく、高校受験も始まっていました。田舎から札幌に出てきて都会の雰囲気興奮していた中学時代に最初のガールフレンドができたのですが、彼女は就職組で、高校へは一緒に行けませんでした。私が通った札幌北高校は新設高校でも女子高等師範学校だった伝統もあり女子学生が半数以上在籍し、生徒会やクラブ活動でも女子学生が活躍していましたが、大学進学希望は圧倒的に男性が多く、私の高校時代のガールフレンドも就職組でした。先生の話聞いてすぐ思ったのは、私が補講を受ければ彼女と一緒に帰校できないということでした。当時の北校にはクラブ等で帰宅が遅くなった場合男子学生が女子学生をエスコートして自宅近くまで送るという伝統がありました。当時家族は父親の転勤のため東京に移っており、私自身は高校近くに下宿してい



たのですが、帰校時間が遅くなったらわざわざ彼女を自宅までエスコートしていたのです。先生の話聞いてすぐに私は立ち上がり、公立の高等学校が大学進学希望の学生だけに補講を行うのは就職組学生に対する差別である。就職組にも必要とされる補講を行うべきであり、第一に高等学校の目的は大学受験のための準備教育であるはずがないと発言しました。A先生は一瞬当惑した様子でしたがすぐに、お前の言うことに一理ある。学校が決めたことは変えられないだろうが少なくとも自分自身は英語の補講授業は担当しないとおっしゃったのです。予想外の展開にクラス全体シーンとなってしまいました。その日の午後、先生に補講担当を止める決断をさせるような発言してしまったという自責から先生を職員室に尋ねたところ、そのことには触れず、外国語を学ぶことの楽しさ、英語の世界のおもしろさを問わず語りし、補講の教科書にはこの本を使おうと思っていたん

だ。自分が教師になろうと思ったのはこの本を読んだからだと紹介されたのが今も手元にある昭和33年発行、研究社小英文叢書第41番：ジェイムス・ヒルトン著「チップス先生さようなら」です。

すでに新潮文庫から訳本が出ていたことを知らなかった私はその夜初めて辞書なしに、分かる単語だけを頼りに85ページの英文を読み上げました。そのような読み方でも、主人公チップス先生の人柄や学生とのやり取りに感動し、翌朝先生を訪ね、チップス先生が学生に伝えたかったメッセージはsense of proportion（均衡の精神）ではないでしょうかと伝えたところ、「そうだね。何が大切で何が不必要か時代によって変わるけれどその精神だけを持っていればいいんじゃないかね」とおしゃってくれました。

この本は、その後の人生の様々な転機点で絶えず読み返されました。大学での専攻を何するか、札幌に残るか東京に行くか、最初の大学で通信工学部を終えた時には就職すべきか文学部へ再進学すべきか、その後さらに専攻を変え大学院に進んだ時、米国留学後帰国すべきか、日本でどのような仕事ができるのかと迷った時にはいつもこの本を手にしていました。55歳まで東京で小さな高等教育関連の調査・コンサル会社を経営していた自分が8年前に大学教育の現場で教員として働く決断を迫られ、小阪に単身赴任を決めた時も読み直しました。何れの場合もsense of proportionが決め手となったのです。

著者James Hiltonは1900年生まれのイギリス出身の作家で、後にアメリカに帰化した世界的な文豪で、日本でも「鎧なく騎士」や中国雲南省にあるといわれる桃源郷シャングリヤについて書いた「失われた地平線」の訳で知られていましたが、なんといっても彼の名を世界的にし、最も広く読まれているのが「Goodbye, Mr. Chips」で、何回も映画化やミュージカル化されています。

物語の舞台は第一次大戦前後のイギリスのパブ

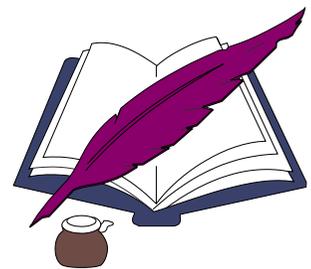
リックスクールと総称されている私立の全寮制学校ブルックフィールド校で、主人公はその学校に赴任したばかりのラテン語教師、Chipsと愛称で呼ばれているChippings先生、物語は引退してもなお学校の近くで一人住まいを続けるチップス先生の回顧録の形をとっています。学園ものといっても日本の金八先生シリーズとは少々趣きが異なり、アメリカ映画「今を生きる」にも見られる心温まる教師と生徒の会話が中心となっています。

ヒルトンの父親がウオルサムストウパブリックスクールの校長をしており、彼の幼少時代を過ごしたウオサムストウや彼自身が学んだパブリックスクール：ヘイレイバリー校での経験が小説の元になっているといわれていますが、イギリスの良家の男子学生が全寮制学校で過ごす日常生活が生き生きと描かれています。つい最近までイギリスの名門大学であるオックスフォードやケンブリッジ大学卒業生の最もあこがれる職業がパブリックスクールの校長：ヘッドマスターだったといわれる理由がこの本を読むと良く分かると思います。

いまさら古いラテン語なんかやって何の意味があるのかと予習をやってこない生徒にチップス先生が引用するローマの詩人バーギルの一節：Haec olim memnisse juvabit（いずれの日にかこのことを楽しく思い出すことであろう）は現在も私の座右の銘となっています。

ご紹介図書「チップス先生、さようなら」

の本学所蔵：2階 新潮文庫コーナー



『タフの方舟』

(ハヤカワ文庫, 2005.4)
ジョージ・R・R・マーティン 著

今年度前半のSFナンバー・ワンは、これで決まり。連作短編(中編)7話が文庫2冊にまとめられた『タフの方舟(1. 禍つ星^{まがぼし}/2. 天の果实)』は、SF界久々の快作である。まず、主人公の宇宙商人ハヴィランド・タフのキャラクターが秀逸。かなり太りぎみで、慇懃無礼とも言える軽妙な口調のタフは我々の笑いを誘う。このあたり酒井昭伸ならではの慣れた翻訳のおかげだろう。そしてプロットがいい。

タフはある日、過去のいろいろな星の遺伝情報がプールされた巨大宇宙船を手に入れる。この宇宙船がつまり聖書で言うところの「方舟^{はこぶね}」になぞらえられているのだが、過去のどんな生物でもクローン化することができるのだ。敵との戦いの中

で、地球のティラノサウルスをはじめ、世にも恐ろしい生物がクローン



化されて使用されるのだが、それは諸刃の剣として自分にも反逆の手を伸ばすのである…。とまあ、ワクワクするストーリーが展開する。その他脇役というより、準主役で登場するトリー・ミュンというえげつない中年女性に注目されたし。特に2冊目のラストでミュン苦悩とタフの哲学が激突する白眉のシーンがある。そこでなされる決断は、我々が考えたくもないような非情、かつ必要なものだった…。一度手に取れば最後まで読まない人はいないと思うが、くれぐれもラストシーンをお見逃しなく。同じ作者による「七王国シリーズ」もおススメ。(学長 谷岡 一郎)

『消費とアメリカ社会 ——消費大国の社会史』

(山川出版社, 2005.5)
常松 洋, 松本 悠子 編

経済・経営・商学分野では、消費は生産と市場の3点セットでつねに取り上げられる。それは人間が生きていくうえで絶対欠かすことのできない行為である。「この世で生きていく意味がない」というニヒリストも、メシを食い、衣服を身につけているだろう。他方現代の大衆は、消費にしか「自己実現」の場を見出していないようにも見える。これほど重要な行為でありながら、意外なことに、消費についての研究には少なからず立ち遅れている領域がある。もちろん、市場経済にあっては売り手側の企業はつねに販売の問題に直面するから、その課題を受けとめ、(購買動機、購買行動等を探る)消費者行動研究は1世紀近い歴史

をもつ。これは消費関連のミクロ的研究といえる。

しかし、そのマクロ的側面、例えば戦後の日本で一世を風靡した「アメリカ的生活(消費)様式」とか、しばしばジャーナリズムで取り上



げられる「消費革命」「消費文化」等については、薄っぺらな理解に留まるのではないか。本書は、社会学や経済史分野を中心とする英米における近年の消費社会・文化論の隆盛を踏まえ、アメリカにおける消費と消費者の変容を広いパースペクティブのもとに捉え、それがアメリカ社会やアメリカ民主主義といかなる関係があるのかを追求したものである。

(総合経営学部教授 中野 安)

『バフェット 投資の王道』

(ダイヤモンド社, 2005.2)
ロバート・P・マイルズ 著

全米第一位の富豪がマイクロソフト社のビル・ゲイツ会長であることはよく知られている。それでは第二位の富豪は誰なのだろうか。それは、ウォーレン・バフェットという株式投資家である。バフェットは株式投資だけで富を築きあげた。本書はこの投資家の半生記を描いたものである。バフェットは現在400億ドル（4兆6千億円）の資産を持っているという。ほとんどゼロから出発してこの40年あまりの間に築きあげた。

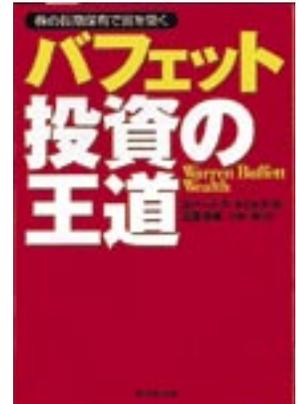
バフェットが運営する投資会社、ニューヨーク証券取引所に上場しているパークシャー・ハサウェイの株価は、1962年に7ドルであったのが、現在は8万5千ドルにまで値上がりしている。

優れた会社を探し出し、その会社の株式を買っ

て保有し続けるというのがバフェットの投資法である。分散投資ではなく少数の銘柄に集中投資をして富を築き上げたのである。優れた会社を探し出すためにバフェットは調査、資料の解析を欠かさない。そして事業内容を理解でき、すばらしいと思った会社の株式に投資する。主な投資先はコーラ、ジレットなどである。

いくら富豪だといってもバフェットはハサウェイ社から10万ドルの年俸しか受け取らず、10年前に買った車に乗り続けるなどおよそ富豪とは思えない生活を送っている。自分自身は誠実さと率直さが最も大切であると考え、実行しており、投資先の経営者にもこの二つを求めている。

(経済学部教授 佐和 良作)

『いちばん大事なこと
： 養老教授の環境論』(集英社, 2003.11)
養老 孟司 著

脳の研究で有名な養老先生は、「ほそほそ」と喋る人。ところがその養老先生が書く文章、同じように「ほそほそとしたモノ」かと思ったら、実は、大まちがい。一見、「ほそほそ調」「のんびり調」に思えながら、ホントには、淡白な記述や何でもないような身近な譬（たと）えを通して、コトの本質をぎゅぎゅっとと驚ぶかみにして「ずばッ」と言い切る、ものすごい程の「手ごたえ感」が有るのである。そして、ちょっとヤブにらみな感じの視点が、すこぶる面白い。

養老先生が本書でいう「(人間にとって) いちばん大事なこと」とは、環境問題である。「——え!?! なんで?」と思う読者も多いかと思えるが、『となりのトトロ』に「ほのほの」を感じ、

『風の谷のナウシカ』に何か切ないような緊迫感を感じたかつての自分自身の脳ミソを取り戻しながら、ぜひとも本書をじっくりと読み通してみられたい。「そうや! ホンマや! これほど大事なことは、他には無いではないか!!」と、心から、実感できるはずである。養老先生の本の第一の魅力は、ヒトに対する、自然や動物に対する、問題に対する「自分自身の生(なま)な考え」を、ぎゅぎゅっと引っ張り出してくれることである。秋の夜長、皆さんにも、「いちばん大事なこと」を、ぜひともしっかりと考えていただきたいものである。

(総合経営学部 助教授 下山 晃)

秋梨に まず君が刺す 爪楊枝

星散る闇を ふと飾る 夢

響太郎



大阪・ミナミに一番近い大学に学ぶ諸君へ！

2004年4月から大阪商業大学で非常勤講師を務めている。ある授業の際、スポーツ系の男子学生が意外なことを語り出した。人気漫画「ドラゴンボール」のフィギュアを専門とする収集家であり、集めた人形は自分の部屋いっぱいになっており、300万円程度の価値がある……というのだ。僕は、日本のアニメ文化が世界の若者を魅了している現状を伝え、「クール・ジャパン」という言葉もあるんだよ、と話した。膨大な人形群を想像しながら、どこで買い求めたのだろうか？と考えた。本人には聞き漏らしたが、恐らく日本橋なのではないか。アキハバラが萌え系の若者たちの「聖地」と化しているように、西日本を代表する電気街・日本橋にもアニメや漫画、フィギュアの店舗が目立つようになってきているからだ。

実は大阪は、漫画文化と縁の深い都市である。玩具街である松屋町筋には、戦後、貸し本屋専門の出版社が多数並び、大阪大学医学部生だった手塚治虫、「ゴルゴ13」の作者さいとう・たかお、などという日本を代表する漫画家たちが若いころに出入りしていた。大阪は商都というイメージが強いものの、サブカルチャーを育む文化都市でもあったのだ。

こうした若者文化のインキュベーター（孵卵器）である繁華街と大阪商業大学は至近距離にある。河内小阪駅から近鉄電車に乗れば難波まで準急で13分。250円。何という恩恵であることか！

郊外に移転してしまった大学が多いなかで、大阪商業大学はミナミに最も近い4年制大学のひとつである。1～4年まで変わらずに同一キャンパスで勉強できる利点もある。

都市型大学で学ぶメリットを生かして、大阪の都心部を歩いてみよう。きっと新しい発見と出会うはずだ。そしてキャンパスの図書館に戻り、見たことや気づいたことを調べてみてはどうだろう。テレビやパソコンのバーチャルな情報に頼らず、実際にまちを歩き、活字で確認してみると、新しい大阪の姿が浮かび上がってくる。青森出身

の芸術家、寺山修司はかつて「書を捨てよ町へ出よう」と叫んだけれど、みなさんには「まちを歩き、図書館で確かめよ！」と伝えたい。

大阪の実像を知るために、いくつかの書籍を紹介してみる。2004年12月に出版された『大阪力事典 まちの愉しみ・まちの文化』（橋爪紳也監修、創元社）は、まち歩きのガイドブックになる絶好の本だ。大阪全体を「活動するミュージアム」と位置づけて詳しく分析している。＜大阪人も知らない大阪発見マガジン＞とうたう月刊誌『大阪人』（大阪都市協会）も興味深い雑誌である。2005年10月号の特集「モダン・ガールの時代」では戦前のファッションな女性たちを紹介。バックナンバーをみると、妖怪や幽霊を取り上げた「不思議伝説」、美術に触れた「大阪アートシーン」、ミナミの粋を見せた「モダニズム心斎橋」など、多彩な特集が魅力である。芸能に関心があるなら季刊誌『上方芸能』（上方芸能編集部）を手にしてほしい。郷土史では季刊誌『大阪春秋』が119号に達している。赤面しながら言うと、僕は、この4点のいずれにも書く場を与えていただいている。

「まち」で体感する現代社会のフローな情報と図書館に収集された知的なストック（蓄積）と……。その両方のバランスが大切なのではないだろうか。都市型大学の特性と、38万冊を備えたUメディアセンターをフルに活用しながら、学生生活を楽しんでみよう。

※ご紹介頂いた資料は、いずれも本学に所蔵されています。

◆『大阪力事典』（橋爪紳也監修、創元社）

→3階 背ラベル記号 302.163/073

◆月刊誌『大阪人』59巻1号(2005年1月)～

◆『上方芸能』135号(2004年9月)～

→2F 新着雑誌コーナー

◆季刊誌『大阪春秋』63号(1991年)～

→図書館分室 雑誌書庫

背ラベル記号 Z216.3051/0-2

よくあるご質問（図書館ホームページ編）

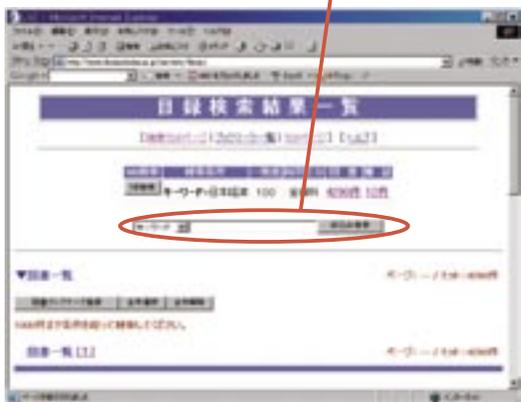
今回は本学の図書館ホームページ上で資料を探す時、よくあるご質問をご紹介します。

図書館のカウンター近くに置いてあるパソコンで検索していて、ついでにメールをチェックしたり、「掲示板」にアクセスしようとしたのですができませんでした。

図書館の各階には合計14台のパソコンが置いてあります。画面にはwebブラウザがたちあがり、通常は図書館ホームページのトップページが表示されていますが、日頃皆さんが利用する「インターネット」には接続されていません。図書館6階「コンピュータ室」にあるパソコンからは接続が可能です。入室の際は6階カウンターで手続きを行って下さい。

最近の日本経済について書いている図書を探そうとして、キーワードを「日本経済」と指定すると何千件もできました。この中から本を選ぶにはどんな方法がありますか？

①検索結果の表示画面でも検索語を入力できますね。ここ(下図○印)で「絞り込み検索」が可能です。複数のキーワードをスペース入力すると、より細やかな検索が可能です。



☆「キーワード」探しに困ったら…

キーワードを探すための「辞書・事典」を調べてみるのもひとつの方法です。図書館には下記のような資料があります。

◆『日本語大シソーラス：類語検索大事典』

(山口翼編、大修館書店、2003年9月)

配架場所：6階／背ラベル番号J813.5/Y24

◆『日本語表現大辞典：比喩と類語三万三千八百』

(小内一著、講談社、2005年3月)

配架場所：6階／背ラベル番号 J816.2/O65

◆『現代用語の基礎知識』2005年版(自由国民社)

◆『知恵蔵』2005年版(朝日新聞社)

◆『imidas』2005年版(集英社)

配架場所：6階／背ラベル番号ともにJ813.7

レポート作成の場合など、先生の推薦図書(「指定図書コーナー」にあります)に目を通してみるのも「キーワード探し」の参考になるでしょう。

②新しく出た本を探すのであれば、最初にキーワードを入力した画面から「ソート順」メニューで出版年順に並べ変えたり、「項目別検索」を選択して出版年で検索することができます。

③図書館の資料は分野別に振り当てられた番号(「分類番号」)の順に配置されています。たとえば今探しているテーマ「日本経済」は、下記のように様々な分野に属しています。多くの場合、直接その分野の棚から本を手にとって探してみる方が確実です。

[例：「経済学入門」「経済学概説」(3階／背ラベル番号331)「日本経済史」(3階／背ラベル番号332.1)「経済用語」(3階(事典・辞典は6階)／背ラベル番号330.33)など]

各カウンターでも相談を受け付けています。

図書館インフォメーション

◆ 図書館は10月1日から禁煙になりました

健康増進法第25条にもとづき、受動喫煙防止のため、図書館内での喫煙コーナーは9月末にて廃止致しました。喫煙される方は1階喫煙コーナー(南東側、エレベーターホール横)または6階テラスでの分煙にご協力をお願い致します。

◆ 図書館への入館は学生証が必要です。不携帯の場合、その日は視聴覚を含む資料の貸出・コンピュータの利用ができなくなり、1ヶ月に3回忘れた場合は次回持参するまで入館禁止となります。学生証は大切な身分証明書です。常に身につけておきましょう。

◆ 平成17年度上半期に寄贈された本学教員著書は下記の通りです。(教員名50音順)

※ 配架場所は、2階「本学教員著書」コーナーです。

【木村雅文先生】『若者と現代社会』／永井広克編著・学文社、2005.

【田崎公司先生】『たをやめと明治維新：松尾多勢子の反伝記的生涯』／アン・ウォルソール著；菅原和子、田崎公司、高橋彩訳・ペリかん社、2005.

【長尾和英先生】『愛の子育て：子ども学のすすめ』／長尾和英、塩見愼朗 著・昭和堂、2005.

【中津孝司先生】『エネルギー資源争奪戦の深層：国際エネルギー企業のサバイバル戦略』／中津孝司著・創成社、2005.

【成田孝三先生】『成熟都市の活性化：世界都市から地球都市へ』／成田孝三著・ミネルヴァ書房、2005.

【八尾 晃先生】『情報・ビジネスに役立つeコマースの基礎』／八尾晃、奈良順司著・東京経済情報出版、2005.

【山本 誠先生】『現代商業簿記講義』／山本誠 [ほか] 著・中央経済社、2005.

◆ 卒論作成用の特別貸出について

4年生の皆さんは、卒業論文作成のための特別貸出ができます。

延長手続きを行わずに、1ヶ月借りることができます。

希望者は貸出時にカウンターまで申し出て、手続きを行って下さい。

◆ 卒業後も図書館を利用できます

卒業生は利用者登録をすると、1年間無料で図書館を利用することができます。希望者は卒業式後、身分証明書に該当するもの(免許証、保険証など)および写真(3cm×4cm)1枚を持参の上、図書館2Fカウンター「利用者登録受付」まで申し出て下さい。

◆ 冬期休暇期間中の長期貸出について

冬休みの学習・研究用に長期貸出サービスを行います。実施期間中は図書の貸出すべてに適用されます。手続きは通常どおりです。詳細はポスター・掲示板でお知らせします。

開館案内

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

●は休館日です。(開館時間：月～土 9：00～20：00)

上記以外にも臨時休館日を設ける場合があります。

年末年始の開館時間等、詳細は学内掲示・モニター・ホームページ等でお知らせ致します。

大阪商業大学図書館報「ブック村だより」第27号 平成17年11月30日 発行 大阪商業大学図書館
〒577-8505 東大阪市御厨栄町4-1-10 電話(06)6781-5280 FAX(06)6781-0089
e-mail : lib@oucow.daishodai.ac.jp ホームページアドレス : <http://www.lib.daishodai.ac.jp>

ISSN 1346-8928